



高橋和加奈さん (長泥) 菅野真紀さん (宮内)

HOPEES
希望の声届けます

「子どもにかかわる仕事に就くことが夢です」と、村幼稚園に笑顔で子どもたちと向き合う二人の教育実習生の姿。幼い頃から年下の子の面倒をみるのが好きなこと、幼稚園の先生に憧れを抱いていることが夢のきっかけと話してくれました。もともと中学校の先輩・後輩の二人。村で過ごした幼少期、和佳奈さんは「自然の中で遊んだこと」真紀さんは「家に帰って、母に絵本を読んでもらったこと」がそれぞれ大切な思い出もあり、子ども達に一番伝えたいこと。二人は大切な想いを子ども達につないでいきます。



- (材料(4人分))
- ・ししやも …… 12匹
 - ・小麦粉 …… 適量
 - ・卵 …… 適量
 - ・ごま(黒・白)… 各大さじ2
 - ・油 …… 大さじ2
 - ・付け合せの野菜 …… お好み

- (作り方)
- ①ししやもの胴体部分に小麦粉、溶き卵(または、水で溶いた小麦粉でもOK)をまぶし、更にごまをまぶす。
 - ②フライパンに油を入れて①のししやものを焼く。
 - ③お好みの野菜を付け合せて出来上がり。

- (ポイント)
- ・ごまのプチプチした食感と、ししやもの卵の食感が絶妙です。
 - ・骨ごと食べられるししやもとゴマでカルシウムもたっぷり!

協力：飯館村食を考える会

入札結果をお知らせします

入札日/8月31日 (単位:円)

| 工事(業務)の番号・名称 | 契約額(税込み) | 請負業者 | 完成予定 |
|----------------------|-------------|--------------------|-----------|
| 総合行政システム改修業務(厚生労働省分) | 5,233,680 | (株)福島県中央計算センター | 平成28年3月末 |
| 健康管理システム改修業務 | 2,127,600 | 福味商事(株) | 平成28年3月末 |
| 地上デジタル放送再送信事業設計業務 | 7,776,000 | 東日本電信電話(株)福島法人営業部門 | 平成27年10月末 |
| 消防飯館分署建設工事 | 198,180,000 | 関場建設(株) | 平成28年3月末 |
| 飯館村「福恋いちご」PR事業業務 | 2,481,200 | (株)大広 | 平成28年3月末 |
| 大谷地団地建て替え2期実施設計業務 | 9,590,400 | (株)邑建築事務所 | 平成28年3月末 |
| 飯館村既存村営住宅修繕計画作成業務 | 4,298,400 | (株)邑建築事務所 | 平成28年2月末 |
| 大倉浄水場屋根葺き替え工事 | 1,047,600 | (株)英工務店 | 平成27年10月末 |

入札日/9月1日 (単位:円)

| 工事(業務)の番号・名称 | 契約額(税込み) | 請負業者 | 完成予定 |
|-----------------|-----------|--------------------|-----------|
| いいたて村民ふれあい号実施業務 | 4,440,000 | (株)近畿日本ツーリスト東北福島支店 | 平成27年12月末 |

入札日/9月17日 (単位:円)

| 工事(業務)の番号・名称 | 契約額(税込み) | 請負業者 | 完成予定 |
|-------------------|-----------|--------------|-----------|
| 消防飯館分署建設工事監理業務 | 6,480,000 | (株)久慈設計 東京支社 | 平成28年3月末 |
| 第20号 帰還再生生活道路整備工事 | 1,728,000 | 濱田建設工業(株) | 平成27年12月末 |
| 第21号 帰還再生生活道路整備工事 | 5,670,000 | 濱田建設工業(株) | 平成27年12月末 |
| 第22号 帰還再生生活道路整備工事 | 9,244,800 | (有)福相建設 | 平成27年12月末 |
| 第23号 帰還再生生活道路整備工事 | 2,538,000 | (有)福相建設 | 平成27年12月末 |
| 第24号 帰還再生生活道路整備工事 | 4,212,000 | (有)渡建工業 | 平成27年12月末 |
| 第25号 帰還再生生活道路整備工事 | 8,586,000 | (株)英工務店 | 平成27年12月末 |

こころのぽけっと

「までいライフ」と「引き算の暮らし方」

日本は、戦後の経済成長の過程でより多くの新しいモノを次々と持つことで私たちの夢を叶えてきました。「たくさん持つ」ことが幸福の目標であったのです。よって、日本人の暮らしはある意味で多くのモノに埋め尽くされています。ヨーロッパなどで、よく聞かれる「これはおじいさんの時代からのモノ」というシンプルな生活は、日本ではほとんど聞かれませんが。

世界的にみても日本人の家の中にあるモノは圧倒的に多いはず。これは、日本人特有の「もったいなさ」「まだ使えるはず」というモノを大切にしている心から出ているものです。わが村が進めてきた「までいライフ」そのものでもありません。

ところで、今回の避難の中で「何もない日常が、いかにありがたいかに気づかされたこと、5年近くの避難によって家の中で使えなくなってしまったモノや、もう不要と思われるモノを、環境省の事業で小宮の焼却炉で燃やせるといふ事業が進められています。人によっては、この機会にといいことで大型ダンプで3台も4台も出した方もいるようです。これからの時代を考えると、たしかにこれまでの「足し算の暮らし方」から「引き算の暮らし方」に変えていかねばならないはずですから、よい機会ととらえることも必要でしょう。引き算の暮らしはむしろ、心のゆとりを育てることに必要です。モノを大切にすることも大事。しかし、最低限必要なシンプルな暮らしをする「引き算の暮らし方」を心がけることも大事な時代に入っていることも確かです。

難しいかもしれませんが、今回の家庭ごみ焼却事業は、私たちにモノを大切に「までいライフ」と「引き算の暮らし方」をどうバランスをとるかということ、もう一度考える機会を与えられたとも考えられるのではないのでしょうか。

平成27年9月24日 飯館村長 菅野 典雄